

令和4(2022)年度県立高等学校入学者選抜の結果について

令和4年度県立高等学校入学者選抜は、全日制課程の特色選抜が2月7日(月)及び同月8日(火)、一般選抜が3月7日(月)、また、定時制課程のフレックス特別選抜が3月7日(月)、一般選抜が3月17日(木)に実施された。これらの受検・合格状況は下の表に示したとおりである。

1 生徒募集定員の総枠について

令和4(2022)年3月の県内中学校卒業見込者数17,320人(前年比78人減)を考慮し、全日制課程の定員を11,395人(前年比80人減)とした。

2 令和4(2022)年度入学者選抜について

(1) 特色選抜

特色選抜については、全ての全日制課程高校58校114系・科で実施された。特色選抜においては全ての高校で面接を実施しており、40校88系・科では作文を、16校24科では小論文を実施した。また、学校独自検査は2校2科で実施しており、同じ2校2科で学校作成問題を実施した。

(2) 傾斜配点、面接等

昭和61年度から一般選抜(学力検査)の評価方法の弾力化を図り、教科内傾斜配点を実施している。実施については、各学校・学科の特色及び入学後の生徒の進路等を配慮して決めるものであり、今年度は3校3科で国数英の3教科により実施した。また、小山高校の数理科学科については、昨年度と同様に、数学の得点を1.5倍にする教科間の傾斜配点を実施した。

一般選抜(学力検査)受検者に対する面接は平成元年度から導入しており、今年度は22校70科で実施した。

海外帰国者・外国人等の受検に関する特別の措置については、特色選抜と同時に行うA海外特別選抜で20名が合格した。

定時制課程においては、満20歳以上の志願者は、学力検査を行わず、作文をもってこれに代えることができる。この制度では、2名が合格した。

以下、各教科の学力検査問題(全日制)について、出題の方針及び結果の概要について述べる。なお、各問の正答率は全日制課程受検者1,000名を抽出して調査した結果であり、完全正答者についての割合である。

<表> 受検・合格状況の推移

	令和4(2022)年度				令和3(2021)年度				令和2(2020)年度			
	全日制		定時制		全日制		定時制		全日制		定時制	
	特色選抜	一般選抜	フレックス特別	一般選抜	特色選抜	一般選抜	フレックス特別	一般選抜	特色選抜	一般選抜	フレックス特別	一般選抜
募集定員	11,395		560		11,475		560		11,675		560	
受検人員	4,766	8,887	157	187	4,874	8,985	148	157	5,059	9,242	201	231
受検倍率	1.74	1.11	1.57	0.41	1.82	1.11	1.48	0.35	1.80	1.13	2.01	0.51
合格人員	3,122	7,582	108	186	3,082	7,777	108	156	3,215	7,894	110	217
合格倍率	1.53	1.17	1.45	1.01	1.58	1.16	1.37	1.01	1.57	1.17	1.83	1.06

※ 受検倍率=受検人員÷定員、合格倍率=合格人員÷合格人員

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校国語科の指導内容に即し、基本的な言語に関する知識・理解、適切に表現する能力、正確に理解する能力を総合的に評価できるようにした。
- 2 生徒の多様な学力の実態に応じ、言語に関する事項についての知識及び理解の程度を評価できるようにした。
- 3 生徒の学習や日常生活に関連があり、内容に偏りのない平易な文章を読んで、表現者の立場や考え方を捉えたり、あるいは作品の描写や登場人物の心情を読み取ったりするなどして自分の考えをまとめて表現する能力を評価できるようにした。
- 4 古典については、親しみやすい内容の古典を素材に、基本的な読む能力を評価できるようにした。
- 5 作文については、根拠を明確にして自分の意見を適切に書く能力を評価できるようにした。

結果の概要

1 は、言語に関する知識と理解度、言語感覚の確かさや言語運用能力をみるものである。言語に関する単なる知識の確認にとどまらず、言葉の意味やきまりを確認することを通して、言語生活の向上に役立てることを意図して出題した。

1 の漢字の読みの問題は平均正答率が 77.4%、2 の漢字の書きの問題は平均正答率が 74.7%であった。漢字の読みは、全体として高い正答率であったが、(5)の「稚拙」の正答率が 27.6%と低かった。漢字の書きは(3)「冷ます」が 91.6%で最も正答率が高く、最も正答率の低い(4)「功績」が 52.9%という結果であった。日常生活で使用する語彙の確実な定着を今後も期待したい。

4 の敬語表現に関する設問の正答率は 54.0%だった。敬語表現については学習を継続し、定着させることが望まれる。

2 は、江戸時代に出版された「百物語評判」を素材として出題した。「先生」のもとに集まった人々が「見こし入道」という妖怪について語っている場面を取り上げた。歴史的仮名遣いや動作の主体を答える問題、本文に関する内容などを問う問題を出題した。

1 の歴史的仮名遣いにおいては、87.5%という高い正答率であった。また、2 の主語を選ぶ設問においても、64.7%という正答率であり、本文の内容を捉えることができていた。

主語を補いながら読み進める古文の学習の特徴を念頭に、行為や動作の主体をおさえ、話の流れを概括する学習や、登場人物の言動の内容や意味を捉える学習等の継続が重要である。また、言語

文化を継承するという観点からも、古文特有の言葉に注目したり、話の面白さを味わったりするなど、多くの古典に親しむ機会をもち、現代に息づく古典の価値を理解することが大切である。

3 は、三井秀樹の「形の美とは何か」を素材として出題した。自然がつくりだす形がなぜ美しいのかについて論じた文章である。

自分の言葉で答えを記述する設問 1 と 4 の(Ⅱ)の部分正答率を含む正答率はそれぞれ 61.8%、62.2%であった。記述問題においては、本文の語句を適切に用いて説明する力を身に付けるとともに、書くことに対する前向きな姿勢が必要となる。

説明的な文章を読解する上では、筆者が本文全体を通して伝えようとしていることを正確に読み取る力を養っていく必要がある。その際には、読み取った内容を自分の言葉でまとめたり、論理の展開について考えたりする学習を取り入れることも効果的である。

4 は、天沢夏月の「ヨンケイ!!」を素材として出題した。陸上で関東大会出場を決めた兄が、進路について悩む弟の背中を押す場面を取り上げた。

3 の「俺」が「翔」の頭にぼんと手を乗せた表現に関する説明について問う問題の正答率が 47.7%とやや低かった。文脈に即しながら適する答えを見つける力を身に付けることが求められる。

文学的な文章では、グループ活動等において、各自の読みの交流を図るとともに、解釈の妥当性を検証し合うような学習が重要である。判断の根拠を探して話し合ったり、表現や描写をもとに登場人物の言動の意味を考えさせたりする学習活動によって、確かな読みの育成につなげていきたい。

5 の作文は、「言葉」を使用する際に気をつけたいことについて、条件に沿って内容を適切に書く能力を評価するものである。

テーマに対する適切な具体例、自分の考えと理由を関連づけて適切に表現することを求めている。普段の生活の中で、身の回りの出来事に対する意識を高め、考える習慣を身に付けるとともに、読み手の立場に立って自分の意見を表現する訓練をしていきたい。

<令4(2022)> 国語学力検査結果集計表

(全日制課程受検者から1,000名を抽出して集計)

問		題	正答率
1	1	(1)	99.9%
		(2)	98.3%
		(3)	75.9%
		(4)	85.3%
		(5)	27.6%
	2	(1)	82.0%
		(2)	84.4%
		(3)	91.6%
		(4)	52.9%
		(5)	62.5%
	3		82.8%
	4		54.0%
	5		87.5%
	6		62.6%
7		85.5%	

問		題	正答率	
2	1		87.5% (87.8%)	
	2		64.7%	
	3		69.0%	
	4		55.0%	
	5		19.1% (36.0%)	
3	1		13.2% (61.8%)	
	2		76.4%	
	3		53.0%	
	4	(Ⅰ)		85.2%
		(Ⅱ)		15.9% (62.2%)
5		55.6%		

問		題	正答率
4	1		66.6%
	2		85.2%
	3		47.7%
	4		82.0% (87.4%)
	5		7.9% (56.7%)
	6		85.2%
5		(93.1%)	

※ () 内は部分正答も含めた割合

社 会

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえて、地理・歴史・公民の各分野から相互の関連にも留意して出題した。
- 2 各分野において基礎的・基本的内容を出題し、社会的事象に関する基礎的知識についての理解の程度をみようとした。
- 3 地図・統計・略年表等から必要な情報を読み取り、適切に表現する力をみようとした
- 4 各分野において論述問題を出題し、社会的事象を多面的・多角的に考察し、適切に表現する力をみようとした。

出題分野・解答形式別の問題数・配点の内訳

	地理的 分 野	歴史的 分 野	公民的 分 野	合 計
選 択	10(20)	9(18)	7(14)	26(52)
記 述	3(6)	4(8)	5(10)	12(24)
論 述	2(8)	2(8)	2(8)	6(24)
合 計	15(34)	15(34)	14(32)	44(100)

() 内の数字は配点

結果の概要

1 は、地理的分野のうち、日本の様々な地域に関する理解度をみる問題である。

様々な資料を適切に活用することにより、日本各地の地域的特色を考察する力をみようとした。

8 は、知床半島における観光の課題と、課題の解決に向けた取組について、複数の資料を読み取り、適切に表現する力をみるもので、正答率は 19.1%であった。

2 は、地理的分野のうち、世界の様々な地域に関する理解度をみる問題である。

世界各国の農産物を取り上げ、農産物の地域性について、各地域の人々の生活や文化、自然環境などに着目してとらえ、考察する力をみようとした。

1(5) は、貿易に関する複数の資料を読み取り、適切に表現する力をみる問題で、正答率は 19.7%であった。

地理的分野では、資料を活用して事象を説明したり、

自分の解釈を加えて論述したり、意見交換したりするなどの学習活動を充実させ、思考力や表現力等の育成を図ることが求められている。

3 は、歴史的分野のうち、日本の古代から近世までの理解度をみる問題である。

7 は、開港時の幕府の対応について、資料から読み取ったことと中学校で学んだ基本的な内容とを結びつけ、文章にまとめ表現する力をみる問題で、正答率は 25.9%であった。

4 は、歴史的分野のうち、日本の近代から現代にかけての理解度をみる問題である。

3 は、関東大震災が都市計画に与えた影響について、資料から読み取ったことと中学校で学んだ基本的な内容とを結びつけ、文章にまとめ表現する力をみる問題で、正答率は 32.2%であった。

歴史的分野では、歴史に関わる事象の意味や意義などを、諸資料を活用し、時期や年代、推移、比較、相互の関連などに着目して多面的・多角的に考察したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする学習を充実させることが求められている。

5 は、公民的分野のうち、日本の経済のしくみや、国や地方行政の働きについての理解度をみる問題である。

2(4) は、「大きな政府」と「小さな政府」の政策について、資料を読み取り、適切に表現する力をみる問題で、正答率は 24.5%であった。

6 は、公民的分野のうち、SDGs を素材にして、国際連合や基本的人権などについての理解度をみる問題である。

6 は、持続可能な社会の実現に向け、地球環境問題の解決を目指した日本の取組について、資料を読み取り、適切に表現する力をみる問題で、正答率は 26.8%であった。

公民的分野では、習得した知識や概念、技能を活用して、社会的事象について考えたことを説明したり、自分の考えをまとめて論述したり、議論などを通して考えを深めたりすることが求められている。

社会科の授業では、知識や概念を活用し、資料をもとに社会的事象の意味や意義を考察する学習や、事象の特色や事象間の関連を説明する学習活動が今後も求められる。

(全日制課程受検者から1,000名を抽出して集計)

問	題	正答率	問	題	正答率	問	題	正答率	
1	1	56.4%	3	1	82.9%	5	(1)	37.7%	
	2	78.3%		2	77.6%		1	(2)	60.5%
	3	74.1%		3	73.2%			(3)	64.0%
	4	62.6%		4	65.2%	2	(1)	75.5%	
	5	71.5%		5	59.3%		(2)	57.9%	
	6	66.7%		6	50.7%		(3)	76.9%	
	7	81.2%		7	25.9% (54.0%)		(4)	24.5% (87.3%)	
	8	19.1% (67.3%)		8	68.5%	1	A	81.0%	
2	1	(1)	49.4%	4	1		66.6%	B	59.8%
		(2)	85.5%		2	38.1%	2	22.0%	
		(3)	81.4%		3	32.2% (78.9%)	6	3	64.0%
		(4)	78.2%		4	70.7%		4	76.6%
		(5)	19.7% (91.1%)		5	43.1%	5	72.6%	
	2	1	(1)	71.0%	6	(1)	6	26.8% (92.9%)	
(2)			32.9%	(2)			25.7%		

※ () 内は部分正答も含めた割合

数 学

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校数学科の指導内容に即して、数学の基礎的・基本的な知識及び技能、数学的な思考力・判断力・表現力等を総合的に評価できるよう、数と式、図形、関数、データの活用の4領域から出題した。
- 2 数と式の領域では、数の四則計算や文字式、方程式の問題及び問題解決の過程を説明させる問題を通して、基礎的・基本的な知識及び技能、数学的な思考力、判断力、表現力等を評価できるようにした。
- 3 図形の領域では、図形の計量問題や基本的性質に関する問題及び証明問題を通して、基礎的な概念や性質の理解及び筋道を立てて説明する能力を評価できるようにした。
- 4 関数の領域では、いろいろな事象の関数に関する問題を通して、関係や法則を数理的に捉え、数学的に考察し表現する能力を評価できるようにした。
- 5 データの活用の領域では、データの分布、確率、標本調査に関する基礎的・基本的な問題を通して、基礎的な概念や性質の理解及びデータの傾向を捉え考察し表現する能力を評価できるようにした。
- 6 数と式、図形、関数、データの活用のうち、いくつかの領域からなる問題を通して、事象の中に潜む関係や法則を数理的に考察し、数学的な見方・考え方を働かせ、問題を解決する能力を評価できるようにした。

結果の概要

1 は、各領域における基礎的・基本的な知識及び技能をみる問題であり、平均正答率84.9%であった(昨年度は71.1%)。今後も基礎・基本の定着を図る必要がある。特に、三角形の合同条件の正確な理解、おうぎ形の弧の長さを求める技能に課題がみられた。確実な定着が望まれる。

2 は、数と式の領域における基礎的な知識及び技能、思考力・判断力・表現力をみる問題である。**1**は平方根の値が整数となる条件を正しく処理できるかを問う問題であり、**2**はロープウェイの乗車場面を正しく捉え、立式し、連立方程式を解く問題であり、**3**は二次方程式と解に関する問題である。正答率は**1**が53.8(77.6)%, **2**が54.9(93.2)%, **3**が73.9(84.7)% (()内は部分正答も含めた割合)であった。ここで問われる1つ1つの内容はいずれも基本的な内容である。与えられた条件を正しく理解し、表現・処理する力の定着が望まれる。

3 は、データの活用の領域における基礎的な知識及び技能、思考力・判断力・表現力をみる問題である。**1**は、大小2つのさいころを投げるときの出る目の数の積に関する確率の問題であり、正答率は81.7%であった。「同様に確からしい」ことに着目し、処理する力の定着が望まれる。**2**は、標本調査に関する問題であり、正答率は、91.2%であった。母集団の傾向を推定し判断する力の定着が望まれる。**3**は、3つの都市の降水量に関するデータを、統計的に処理し、考察する問題である。正答率は、(1)の四分位数が62.0%, (1)の箱ひげ図が59.0%, (2)が72.0%であった。四分位数や箱ひげ図を活用し、データの分布の傾向を比較して読み取る学習活動の充実が望まれる。

4 は、図形の領域における知識及び技能の習得、思考力・判断力・表現力の定着をみる問題である。**1**は、条件から垂直二等分線と二等辺三角形の関係に気づき、論理的に作図する力を問う問題である。正答率は76.5%であった。**2**は、空間図形から、直角三角形や切り口を見だし、線分の長さを求めたり、立体の体積を求めたりする問題である。正答率は、(1)が73.1%, (2)が31.2%であった。**3**は、二等辺三角形の底角の性質を用いて、三角形の相似を証明する問題である。正答率は45.5%であった。図形における点、直線、平面の位置関係を正しく捉え、問題を解決したり、統合的・発展的に考察する学習活動の充実が望まれる。

5 は、関数の領域における知識及び技能の習得、思考力・判断力・表現力の定着をみる問題である。**1**の(1)は、放物線の形と式の間を問う基本的な問題であり、正答率は80.7%であった。(2)は、面積の等しい2つの三角形について考察する問題であり、正答率は56.6%であった。(3)は、2直線の平行条件に関する問題であり、正答率は12.2%であった。**2**は、一次関数のグラフを用いて、複数の電力会社の電気使用量と料金の関係を考察し、説明する問題である。正答率は、(1)が53.4%, (2)が33.2%, (3)が10.5%であった。グラフを活用することのよさを認識し、グラフから読み取れることへの考察を交えながら、日常生活や社会の事象の考察に数学を生かそうとする態度を育むことが大切である。

6 は、反復横跳びを基にした問題を通して、事象を数理的に捉え問題を解決するための思考力・判断力・表現力をみる問題である。正答率は、**1**が48.7(69.0)%, **2**が24.6%, **3**のIが11.3%, IIが3.5%であった。普段の学習から場面を的確に捉え、試行錯誤しながら粘り強く問題解決に取り組むとともに、その過程を振り返って、得られた結果の意味を考察することで、数学のよさを感じてもらいたい。

<令4 (2022) > 数 学 学 力 検 査 結 果 集 計 表

(全日制課程受検者から1, 000名を抽出して集計)

問 題		正答率	問 題		正答率	問 題		正答率	
1	1	98.8%	3	1	81.7%	5	1	80.7%	
	2	91.2%		2	91.2%		1	(2)	56.6%
	3	95.8%		(1) 四分位数	62.0% (84.5%)		1	(3)	12.2% (26.1%)
	4	79.5%	3	(1) 箱ひげ図	59.0%	2	(1)	53.4%	
	5	88.9%		(2)	72.0% (89.9%)		(2)	33.2%	
	6	73.0%	4	1	76.5%		(3)	10.5% (33.5%)	
	7	77.4%		2	(1)	73.1%	1	48.7% (69.0%)	
	8	75.7%			(2)	31.2%		2	24.6%
2	1	53.8% (77.6%)	3	3	45.5% (84.5%)	6	3	I	11.3%
	2	54.9% (93.2%)		II	3.5%				
	3	73.9% (84.7%)							

※ () 内は部分正答も含めた割合

理科

出題の方針

- 1 中学校学習指導要領の趣旨を踏まえ、中学校理科の指導内容に即し、物理的領域、化学的領域、生物的領域、地学的領域の4領域の学習内容から偏りなく出題した。
- 2 自然の事物・現象についての概念や原理・法則の理解や、習得した知識を日常生活や社会に活用する力をみるようにした。
- 3 観察、実験などに関する基本的な技能をみるようにした。
- 4 自然の事物・現象について、見通しをもって科学的に探究する力をみるようにした。
- 5 観察、実験などから得られた結果を分析し、解釈する力をみるようにした。

結果の概要

1 は小問集合であり、幅広い分野からの出題である。自然の事物・現象、観察・実験に関する基礎的な知識・技能をみるようにした。選択問題の平均正答率が77.7%、記述問題が87.0%であった。正答率の高い問題は、1の選択問題のしゅう曲の96.5%、5の記述問題の受粉の97.2%であった。3は、日常生活において熱の放射の仕組みを利用したものを選択する問いであり、正答率は63.0%であった。

2 は、火成岩の観察とミョウバンを用いた実験を通して、斑晶と石基のでき方について科学的に考察する力をみる問題である。3は火成岩の観察結果とミョウバンの再結晶実験を関連付けて判断し、表現する力が求められた。斑晶の正答率は49.2%、石基の正答率は58.2%であった。

3 は、質量保存の法則に関する実験を通して、質量変化の規則性を見いだして仮説を検証する力をみる問題である。3は実験結果から立てた仮説の検証を考察する問いであり、根拠を明確にして判断理由を論述する力が必要である。正答率は29.6%であり、実験結果から見いだした規則性をもとに自分の考えを適切に表現することのできない受検生が一定数見られた。

4 は、電気回路と電流、電圧、電気抵抗について、示された実験方法から実験結果を考察する力をみる問題である。3は記号の正答率42.4%、論述の正答率27.7%であり、問題条件に合う回路を選択できても

電流の計算は正答できていない受検生が見られた。

5 は、身近な動物について、外部形態や生態の特徴に応じて分類する方法の理解をみる問題である。

3の選択問題では、草食動物と肉食動物の目の位置と食物連鎖の関係から、見え方の違いを考察する内容であった。全体として、問題正答率も概ね高く、受検生の知識の定着がみられた。

6 は、中和に関する実験を通して、基礎的な理解からその量的関係について考察する力をみる問題である。3は中和について、それぞれの粒子をモデル化しながら量的関係について考察し、イオンを表す化学式で表す問題であり、正答率は18.1%であった。

7 は、季節ごとに太陽と影の動きを調べる活動を通して、秋分の南中高度や太陽の当たる角度について総合的に考察する問題である。3は、秋分における南中高度を求め、三角比を用いながら季節ごとの高度変化を考察する力が必要であり、正答率は19.2%であった。4は、南中高度と最適なソーラーパネルの設置角度を計算し、緯度との関係を考察する問題であり、計算部分の正答率は30%程度であった。

8 は、植物の光合成や呼吸に関する実験を通して、科学的に考察する力をみる問題である。実験の基礎的な技能や光合成に関する知識は、概ね定着していた。4は、2時間後の二酸化炭素の割合が変化していない実験結果と植物のはたらきを関連させて論述する問題であり、正答率は27.7%であった。光合成や呼吸のどちらか一方のみを解答し、両者の関係性について論述できていない受検生が多く見られた。

9 は、物体の運動に関する実験を通して、速さと時間の関係や物体にはたらく力について科学的に考察する力をみる問題である。3は台車と木片の運動のようすについて、速さと時間、摩擦による運動のちがいの要素を、それぞれ総合的に考察する問題であり、正答率は25.6%であった。

理科の学習において、科学的な用語を理解することは大切であるが、自然の事物・現象について科学的に探究するために、実験計画を立てたり、得られた結果を分析・解釈したりすることも大切である。また、学習したことを日常生活で見られる現象などに当てはめて考えることも大切にしたい。理科のおもしろさを感じながら、学習に自主的・意欲的に取り組んでほしい。

<令4(2022)> 理科学力検査結果集計表

(全日制課程受検者から1,000名を抽出して集計)

問 題		正答率	問 題		正答率	問 題		正答率			
1	1	96.5 %	4	2	電圧	79.3 % (79.4)	7	2	②	53.9 %	
	2	71.3 %			抵抗	66.4 % (66.4)			3	3	19.2 % (25.8)
	3	63.0 %		3	記号	42.4 %		4		①	33.3 % (33.3)
	4	79.9 %			電流	27.7 % (27.7)			②	21.0 % (21.0)	
	5	97.2 % (98.8)	5	1		87.7 %	8	1	1	92.8 %	
	6	84.8 % (86.6)		2	①	91.8 % (91.8)			2	84.0 % (84.0)	
	7	81.5 % (81.8)			②③ 肺	92.0 % (92.1)			3	57.5 %	
	8	84.5 % (85.1)		②③ 皮膚	52.4 % (69.1)	4			27.7 % (31.3)		
2	1	83.6 %		3	①	80.4 % (92.3)	9	1	1	68.7 % (68.7)	
	2	68.3 %			②	78.1 %			2	92.2 % (93.9)	
	3	斑晶		49.2 % (59.6)	6	1			73.8 %	3	25.6 %
石基		58.2 % (68.3)		2		61.8 % (80.2)			4	4	74.2 %
3	1	65.1 % (66.4)	3			18.1 % (21.8)	7	1		1	77.5 % (78.3)
	2	69.1 % (83.1)	4			42.5 %			2	①	1
	3	29.6 % (64.4)	1		77.5 % (78.3)						
4	1	90.6 % (90.7)	7	2	①	1		77.5 % (78.3)			

※ () 内は部分正答も含めた割合

出題の方針

- 1 問題の内容が中学校学習指導要領の趣旨に沿うものとし、聞く、読む、話す、書くことの4領域にわたって出題するように努めた。
- 2 中学校学習指導要領に示されている基礎的・基本的な内容について、多く出題するようにした。
- 3 聞く力については、まとまりのある英語を聞き、概要や要点を適切に聞き取る基礎的な力を主としてみるようにした。
- 4 表現する力については、与えられた場面やテーマに沿って英語で正しく伝える力をみるようにした。
- 5 読む力については、比較的長い文を読み、概要や要点を文脈に沿って読み取る力をみるようにした。

結果の概要

1 は、身近な事柄を素材にした、音声によるコミュニケーションの場面を扱った聞き方の問題で、3問構成とした。問題全体の平均正答率は、57.5%であった。1は短い対話を聞いて必要な情報や要点を捉える力をみる問題である。4問の平均正答率は84.8%であった。2は長めの対話を聞いて、必要な情報を把握する力をみる問題である。3問の平均正答率は42.7%であった。3はまとまりのある英文を聞いて、その要点を捉える力をみる問題である。3問の平均正答率は38.4%であった。(3)は聞き取った内容を別の表現に言い換えて正答を導く問題で、平均正答率は4.0%、部分正答を含めると11.7%であった。「聞く力」の向上のためには、一部の情報を聞き取ることに終始せず、聞き取った情報を整理し、話し手が伝えたい内容の概要や要点を把握できるようになることが大切である。

2 は、基礎的・基本的な言語材料についての理解度をみる問題である。1は基礎的・基本的な言語材料を活用した友人へのメール文を素材にしている。6問の平均正答率は83.7%であった。2は語句を並べかえ、語と語のつながりなどに注意して正しく英語で表現する力をみるための問題である。3問の平均正答率は55.7%であった。

3 は、対話の流れを把握しながら要点を捉える力、対話や与えられた資料等に基づき英文を完成させる力及びテーマに沿って英語で自分の意見や考え等を正しく伝える力をみる問題である。

言語の実際の使用場面により近い題材及び問題設定となるようにしている。身近な鳥である「ツバメ」をテーマとし、日本とイギリスにおける「ツバメ」を取り巻く課題等に関する話題を中心とした対話文を出題した。問題全体の平均正答率は43.6%、部分正答を含めると67.9%であった。1は対話の流れを把握しながら、適切な英語を書く問題である。平均正答率は62.6%、部分正答を含めると64.3%であった。2は資料を参考に、文脈から判断して適切な英語で表現する力をみる問題である。3問の平均正答率は34.3%、部分正答を含めると59.3%であった。資料の内容や対話の流れを的確に把握し、適切な表現を活用して書くことが求められる。3は本文を読み、対話の流れを把握しながら情報を統合し、適切なグラフを選択する問題である。正答率は80.3%であった。6は与えられたテーマについて英語で表現する力をみる問題で、「自然環境に優しい生活」について、自分自身の行動と関連させながらまとまりのある英文で述べる問題である。完全正答率は2.5%、部分正答を含めると67.1%であった。自分の気持ちや考えを相手に伝えるように英語で書く力を育成するためには、言語材料についての理解の定着を確実に図るとともに、実際のコミュニケーションの場面を想定しながら、英語で表現しようとする取組を日頃から積み重ねることが重要である。

4 は、物語文を素材として用いる読解問題で、物語文の内容を文脈に沿って読み取る力をみるものである。今年度は、兄からの助言を通して、主人公が自分の将来の夢に向かって前進しようとする様子を題材とした。5問の平均正答率は43.7%であった。2は、登場人物の心情を捉え、その内容を日本語で説明する問題である。正答率の平均は35.0%であり、部分正答を含めると47.1%であった。出来事や登場人物の心情を読み取り、状況を整理しながら読むことが大切である。

5 は、説明文を素材として用いる読解問題で、時計の歴史についての説明文を出題した。4問の平均正答率は48.6%で、部分正答を含めると56.9%であった。2は、時間を知る方法の変遷を読み取り、流れに合うように英文を並べ替える問題である。平均正答率は38.3%であった。並べ替える英文に書かれている内容を読み取るとともに、該当する段落の概要や要点を考えながら答えを導き出すことが求められた。説明文を読む際には、各段落や英文全体の概要や要点を的確に捉えられるよう、意識しながら取り組むことが大切である。

<令4(2022)> 英語学力検査結果集計表

(全日制課程受検者から1,000名を抽出して集計)

問	題	正答率	問	題	正答率	問	題	正答率					
1	1	(1)	81.6%	2	1	(1)	92.9%	3	5	78.7%			
		(2)	75.5%			(2)	74.2%		6	2.1% (72.0%)			
		(3)	91.4%			(3)	74.4%		1	26.6% (41.6%)			
		(4)	90.5%			(4)	87.4%		2	35.0% (47.1%)			
	2	(1)	34.4%		2	(5)	89.6%		4	3	36.8% (49.8%)		
		(2)	49.5%			(6)	83.4%			4	60.6% (63.8%)		
		(3)	44.2%			(1)	33.0%	5		59.5%			
	3	(1)	81.1% (81.4%)		2	(2)	71.9%	5	1	61.6%			
		(2)	30.1% (34.2%)			(3)	62.3%		2	38.3%			
		(3)	4.0% (11.7%)			1	62.6% (64.3%)		3	34.1% (67.4%)			
	3	2	(1)		31.0% (61.1%)	3	2		(1)	31.0% (61.1%)	4	4	60.2%
			(2)		45.4% (71.4%)				(2)	45.4% (71.4%)			
(4)			26.4% (45.5%)	(4)	26.4% (45.5%)								
3		80.3%	3	80.3%									
4	22.4% (69.7%)	4	22.4% (69.7%)										

※ () 内は部分正答も含めた割合